

革新懇の三つの共同目標

- ①経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非同盟・中立の平和な日本をめざします。

# 鳥取県革新懇ニュース

No.85  
2023年  
9月10日

〒680-0833 鳥取市末広温泉町211誠ビル3階(鳥取県労連気付)  
TEL0857-21-3171 FAX0857-21-3172

## 戦争を記憶し伝承するために

平和のための戦争展境港市実行委員会は、第二次世界大戦中に開設された旧海軍美保航空隊に関連する遺跡・遺構を調査し、このほど、冊子「美保基地周辺の戦争遺跡群～二度と戦争の基地にしないために」を発行しました。発行に至る経緯や思いなどについて、調査・編集責任者の定岡敏行さんに寄稿いただきました。



### 冊子「美保基地周辺の戦争遺跡群」

さだおかとしゆき

調査・編集責任者 **定岡敏行** さん

1943年生まれ、境港市森岡町在住。  
境港市議会議員を退任後、平和のための戦争展境港市実行委員会や境港九条の会で活動。『郷土の歴史再発見 境港楽』主宰。

◆戦争体験を語る人が少なくなるなかで◆

集団的自衛権行使容認など、安倍政権による戦争で生きる国づくりが一気に高まった2014年から、平和のための戦争展境港市実行委員会（由浪容子代表）は、「平和と戦争について地域の人々ともっと一緒に学び考える場をつくりたい」と、『市民が戦時体験を語るつどい』や市民から寄せられた戦時遺品、その時々々のテーマで構成したパネルや写真の展示などをおこなってきました。しかし、戦後も70余年となり、実体験で戦争を語る人は年々少なくなると、戦争の記憶や伝承を、

モノに頼る期待も大きくなっていきます。

私たちの地域には、第二次世界大戦中、日本海側で最大の基地だった海軍美保航空隊、美保航空基地があり、いま、航空自衛隊美保基地となつていますが、周辺には多くの遺跡、遺構が現存しています。

基地の用地は軍の命令一つで有無を言わず収用され、住民は強制移転を余儀なくされました。その広大な土地に、動員された朝鮮人労働者や受刑者、住民の過酷な労働によって様々な施設が建設され、15、6歳の女学校生徒、娘たちは勤労動員に従事、全国から集められた1万人余の若者た

ちが予科練生となつて訓練を受け、その多くが、すでに敗色濃い戦場へと散つていったのです。また、基地があるが故に度々の空襲の的となり、機銃掃射の犠牲になつた人もありました。

◆新たな情報も◆

こうした記憶とともに、手をこまねいていれば往時の遺跡や遺構も失われるばかり。なんとかしなきや、戦時下の海軍美保航空隊の姿と現存する遺跡、遺構を改めて調査し、記録に残そう・・・これが、このとりくみの出発点でした。

ただき、カメラ担いで弓ヶ浜半島のあちこちを歩き回りました。基地内の遺跡、遺構の調査、撮影にあつては、航空自衛隊美保基地広報班の協力もいただくことができました。

◆新たな情報も◆

「よく、これだけ調べられましたね」、「小学6年生の平和学習で使いたい」、「朝鮮人徴用中の証言はショック」、「息子にも読ませたい」、「叔父も予科練生だった。東京の親戚にも送りたい」など、多くの感想が寄せられています。「勉強会でテキストにしたい」と10部まとめての申し込みもありました。お読みになつた大阪の研究者からは「専門知識を要するため長文になりがちな軍事部分を簡潔にまとめ、基地の全体像も、核となる遺構も写真入りで分かりやすく、初心者から軍事に詳しい玄人まで、あらゆる知識層の方が納得できる構成になっている」との講評も寄せられました。

「これは掩体壕ではない、オイルタンクの跡だよ」という指摘とか、「美保中学校前のヤブの中にも掩体壕があつたはずだ。遊んだもん」など、新たな情報も寄せられています。当時を知る者が集まって、知っていることを語りあう場ができるんじゃないかと思えます。

### ◆戦争の証言者として保存したい戦争遺跡◆

戦争遺跡の調査、保存運動のバイブルともいえる正統2巻の『しらべる 戦争遺跡の辞典』（2002～3年）が発刊されていますが、そこに、美保基地については数行しかなく、まるで空白域かの状況です。後にはとりましたが、実行委員会は9月、横須賀市で開かれる『戦争遺跡保存全国シンポジウム』に、この冊子をもつて代表を送ります。少しはこの空白を埋めることができる、全国の遺跡研究、保存運動に貢献できるのではないかと考えています。

このパンフ紹介ができる数日前の新聞が、「戦争遺跡継承 動き本格化」と、鳥



2021年平和のための戦争展での美保基地周辺遺跡パネル展示



冊子は1部500円で販売しています  
お問い合わせは定岡さんへ  
◎電話 090-8064-6191  
◎Eメール t.sadaoka@gmail.com

取県など10道県の調査活動を伝えていきましたが、米子市は昨年10月、戦争遺跡としては初めて、大篠津町にある掩体壕の史跡指定をおこないました。機運も盛り上がってきているのかと思います。

全国の自衛隊基地の強靱化、地下化などが言われていますが、基地内にもたくさんある遺跡、遺構が、地域との協議、合意もありません。解体、撤去されてはなりません。研究者も交え、さらに調査、研究を進め、重要なものは戦争の証言者としてぜひ保存して欲しいものです。

戦争と平和を語り合うきっかけづくり、各地での勉強会に、平和学習にも活用されることを願っています。



## 原水爆禁止国民平和大行進のまとめ

2023年原水爆禁止国民平和大行進鳥取県実行委員会 田村真弓

新型コロナパンデミックがようやく小康状態を迎え、第5類に移行する中で、実に4年ぶりの「歩く」を取り入れた行進になりました。

今年、久しぶりの歩く行進になることや、富山からの通し行進者(山内金久さん・東京板橋原水協)を迎えることに、幾ばくかの不安を持ちつつの取り組みとなりました。

参加者の高齢化に加え、近年記録的な暑さが続く中で、かつてのような長距離の行進は難しいと判断し、役場周辺の短い行進にし、全自治体を訪問することになりました。通し行進者の山内さんはトランプペット奏者で、自治体での歓迎集会や参加者との交流会で演奏していただき、「青い空は」を合唱したことは、参加者を元気づけました。

また、久しぶりに県生協が中心の「市民行進」とエール交換や一緒に行進できたことは大きな成果となりました。7月9日午前中の鳥取市内の市民行進からスタートし、午後の岩美町東浜での国民平和行進の兵庫県からの引継式、14日午前の倉吉市の国民平和行進に市民行進も参加。15日午後は市民行進主催の長崎被爆者八木さんの被爆体験を一緒に聞き、その後、倉吉体育文化会館から倉吉まで往復。16日午前は米子市文化ホールから市役所まで一緒に行進しました。20日の国民平和行進の島根への引継式でも市民行進の代表に挨拶いただきました。

核兵器廃絶を願う気持ちは同じ。今後も手をつないで行動していきたいと思っています。



米子市で8月25日、福島第1原発事故による汚染水の海洋放出に抗議し、立憲民主党、新社会党、日本共産党による3野党合同街宣がおこなわれました。(マイクを握るのは、日本共産党衆議院予定候補の福住ひでゆきさん)

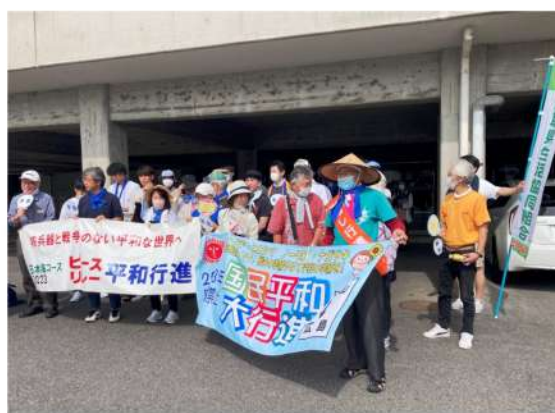
汚染水放出で野党合同街宣

## 鳥取県革新懇 2023年度総会

日時：9月24日(日) 午前10時~11時30分  
場所：北栄町公民館大栄分館 2階講堂



米子市役所前 7月19日



倉吉体育文化会館で市民行進と 7月15日



岩美駅から岩美町役場まで行進 7月10日